

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

2019  
7・31  
No.49



『 遥かな道 』

### 主な記事

- 理事長退任にあたって . . . . . 前理事長 小林 和弘
- 理事長就任のご挨拶 . . . . . 会長・理事長 蒲原 基道
- 就任の挨拶 . . . . . 港区立障害保健福祉センター地域活動支援センター 施設長 小泉 達也
- 就任の挨拶 . . . . . 港区立障害保健福祉センター工房アミ 施設長 村松 徳治
- 「ゆうあいくん♪」は法人のマスコットキャラクターです . . . . . 本部企画部長 宮崎 浩
- 施設紹介 . . . . . 砧介護保険サービス 砧デイサービスセンター
- 善意のかずかず

## 理事長退任にあたって

社会福祉法人友愛十字会  
前理事長 小林 和弘



この六月の定時評議員会の日をもって五年三か月にわたる友愛十字会理事長任期を終えました。この間、幹部の皆様をはじめ、各施設、事業所の職員の方々、友愛十字会後援会や様々な協力団体の皆様方に支えられてその職を全うすることができたことを心から感謝しております。

退任にあたって、いくつか思いつくままに触れてみたいと思います。

友愛十字会は世田谷本部の他に港センターや聴覚障害者支援センター、友愛荘と主要拠点がか所にわたります。拠点の分散による法人組織としての一体的な運営意

識や職員の一体感をどう形成するかが最初の問題意識でした。

このため幹部と相談し、法人全体としての経営戦略を練るための経営会議を設置し定期開催するとともに、財源基盤の確立及び中長期計画の策定検討委員会を設置し平成二十八年度からの六年計画を策定し、計画的な法人運営の実現を目指しました。この委員会には各拠点から中堅職員にも参加してもらい活発な議論をしてもらっています。また、全施設長会議の各拠点持ち回り開催や新しい法人理念の策定作業の際に行った拠点ごとに議論を深めるという作業も法人としての一体感の醸成に資すればという思いでした。そしてまだ数は少ないですが、拠点間での人事異動もこれからもさらに試みる必要があり、今後の取組みが期待されます。

歴史と伝統があるがゆえに、各所で施設の老朽化が同時並行的に進んでいるのが法人の大きな課題です。まずは友愛荘の移転建替えがようやく動き出しましたが、令和三年四月のオープンに向けてこれから様々な作業が控えている中で退任は心残りではあります

が、オープン後の運営の青写真も描きながら、一步一歩着実に進めていってほしいと思います。また、板橋の聴覚障害者支援センターの建替え時期も次第に迫ってきており、東京都との調整を経て具体化が円滑に図られることを期待しております。

平成二十一年四月の指定管理開始時には想像もつかなかったと思いますが、今や予算額や職員数において法人全体の三分の一を超える規模となった港センターの存在感はかなり大きいものがあります。来年四月からは指定管理者としてのまた新しい十年が始まります。さらに南麻布ではこども療育パオが発展的に拡大した港区立児童発達支援センターの指定管理も始まりです。いずれも新事業が加わり、人員や予算規模もさらに拡大することとなりますが、法人事業でありながらの公立施設の運営という特性を十分に理解し、安全で安定的な事業執行に努めていただければと思います。当面は来年四月の新たな指定管理の開始に向け、新事業実施のための職員の確保が急務となりますが、私も理事長退任後は法人顧問の任命を受け

ておりますので及ばずながらお手伝いしていく所存です。

これまでも繰り返し申し上げていましたが、社会福祉施設や事業はそれぞれが所在する地域に受け入れられ、地域住民の評価や信頼を受けてようやく存続しうる、ということを肝に銘じる必要があると思います。これまでもそれぞれの地域において様々な行事の実施や地域との連携を図っていただきましたが、今後も「地域への貢献」の気持ちをしっかりと持ち続けていただければと思います。

新理事長（会長兼務）の蒲原さんは昨年七月に厚生労働事務次官を退任された方ですが、長年の交友関係の中で私から信頼する人物であり、とりわけ障害福祉や介護保険に造詣が深く、昨年十二月からの法人顧問就任後は機会をとらえて各拠点に向き、積極的に現状を見ていただきました。蒲原理事長を中心に皆様方のお力を結集して友愛十字会事業が更なる発展を遂げられますことを心からお祈りして、退任にあたってのご挨拶といたします。

長い間本当にありがとうございました。

## 理事長就任のご挨拶

社会福祉法人友愛十字会  
会長・理事長  
蒲原 基道



6月20日に新しく理事長（兼会長）となりました蒲原（かもはら）です。

歴史と伝統あるこの友愛十字会につきまして、これまでの佐々木前会長、小林前理事長の取り組みをしっかりと継承しつつ、また時代の変化にも対応しながら、職責を果たしていきたいと考えております。法人の役員皆さんの皆さん、友愛十字会後援会の皆さんはじめ多く関係者の皆さん、どう

ぞ、よろしくお願いいたします。

私自身は、九州の佐賀県の生まれで、主に、九州内で育ちました。昭和57年に、旧厚生省に入省し、昨年末まで、厚生労働省で働いておりました。その間、障害者福祉、高齢者福祉、少子化対策などの分野を担当し、一時期は、文部科学省に転向し幼稚園関係の業務にも取り組みました。

今回、友愛十字会のお話をお聞きした際、正直、第一線の仕事が自分に務まるだろうか、と思いましたが、その一方で、こうした縁を大事にしつつ、これまでの経験を活かしてお役に立てれば、との思いもあり、最終的に引き受けることにしました。これまでの行政側ではなく、福祉の第一線の現場で当事者の皆さんに信頼される取

組みを実施するとともに、これを広く発信していけたら、と思っております。

この法人の理念は、「共に生きる」感じ、創る、つながる」です。少子高齢化が進む中で、地域の中でさまざまな課題が生じてきています。こうした時こそ、この法人の理念を大事にしていることが必要です。これまで作り上げてきたこの理念を職員の皆さん方としっかりと共有することを基本に、仕事にあたっていききたいと思えます。

そのためには、まず、現場を担当される役員皆さんの方とのコミュニケーションを大切にしていきたいと考えています。役員皆さんの間でも風通しがいい職場としていき、職員の皆さんの思いが現場のいろいろな取組みにつながるよう

にしてほしいと思えます。

また、法人を支えていただいている友愛十字会後援会の皆さん方をはじめ、地域の皆さんとより一層協力関係を深めていくことが大変大事です。地域の皆さんのお力を法人の業務にお貸しいただくとともに、法人側としても、地域のためにできることをやってまいります。

この令和という時代の幕開けに新たに理事長の職に就くことになり、何か縁を感じております。改めて、この法人のためにこれまでいろいろとご苦労いただいた佐々木前会長、小林前理事長に感謝申し上げます。今後、精いっぱいこの職を務めることをお誓い申し上げます。

## 就任の挨拶

社会福祉法人友愛十字会  
港区立障害保健福祉センター  
地域活動支援センター  
施設長 小泉 達也



このたび、平成31年4月1日付で、障害保健福祉センター・地域活動支援センターの施設長として就任いたしました。

私が福祉の道に入りましたのは遅く、平成17年5月、46歳の時に特別養護老人ホーム砧ホームへ奉職したことが始まりとなります。5年間、砧ホームで高齢者のお世話をさせていただいたのち、

障害者福祉ホームのコーポ友愛に異動となりました。コーポ友愛で生活支援員として5年間を過ごし、その後、生活介護・障害者入所支援の友愛園へ異動し、ご利用者と2年半の間、触れ合う時間を持つことができました。それぞれの施設で、ご支援・ご指導いただいたことを厚く御礼申し上げます。

さて、地域活動支援センターは、障害者が地域で自立した日常生活が営めるよう、相談支援（基本相談、専門相談、専門医相談、計画相談）創作的活動（水彩画、絵手紙、調理など）の提供、スポーツ体験（ボッチャなど）、社会との交流促進、地域への障害者福祉に関する普及啓発活動、ボランティアや支援者に対して技術支援などを行なうと共に自立訓練（機

能訓練）、入浴サービス、施設の貸し出しも抱え幅広い活動をしております。

自立訓練は身体障害の方を対象に訓練を行います。近年の特徴として高次脳機能障害など重複障害のご利用者が多く、また、訓練の目標も社会参加という漠然としたものから職場復帰という明確な目標に変化しています。入浴サービスは区独自のサービスとして、自宅での入浴が困難且つ介助が必要な障害を持つ方々に機械浴・介助浴などを提供し、四季折々の季節を感じられる装飾は多くのご利用者から好評を得ています。入浴ではご利用者の重度化への対応も課題となっております。

現在、センターでは地域の相談支援体制の強化が求められています。当センターに寄

せられた相談に応じ、必要な情報の提供や助言その他の障害サービス利用支援等を行うとともに、現状のサービス提供では解決できない《困りごと》について、地域の皆様の方をお借りしながら、センターとして新たな社会資源の開発に繋がりたいと考えております。

最後に、微力ではございますが、地域活動支援センターが港区民の皆様の役に立てるよう力を尽くす所存でございます。

今後とも皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いし、就任の挨拶とさせていただきます。



## 就任の挨拶

社会福祉法人友愛十字会  
港区立障害保健福祉センター  
工房アミ  
施設長 村松 徳治



平成31年4月に港区立障害保健福祉センターにある生活介護事業所「工房アミ」の施設長職を拝命いたしました。

私が、友愛十字会に採用され「東京都ろうあ者更生寮」（今の東京聴覚障害者支援センター）に生活支援員として配属されたのが平成3年。以降、港センターの指定管理引継ぎを経て、就労継続支援B型事業所の「みなとワークアクトイ」と勤務してまいりました。

職務経歴の最初である、ろうあ者更生寮で、入職当初、自身も聴覚に障害を持つ先輩支援員から「重度の健聴者になるな」と度々注意されました。これは、聴覚に障害を持つ利用者が職場など社会に出た時の生き辛さを感じ取れない支援者になつてはならないとの教えであつて、当時の私の支援者としての態度を戒めるものでした。

所属施設が変わり、利用の主たる対象の障害も変わりましたが、ここ工房アミにおいても、かつて先輩から受けた教えを根幹に置き、知的障害、重症心身障害、強度行動障害といった自らの意思を発信する共通の手段を持たない、または苦手とする障害特性を持つ利用者の側に立つて考え、行動して参ります。

港センターは、昨年度で港区の指定管理最初の10年を終えました。工房アミでは、来年度を初年度とする新たな指定管理10年に向けて、特に取組むべき事

項とし、

「1. 支援内容別の日中活動とクラス編成」  
個別の支援内容が近い利用者グループ化し活動すること、よりよい支援を実現させる。

「2. 意思決定支援」  
意思決定支援責任者を置き、利用者が選択しなればならない場面において、憶測ではなくしつかりと意思を確認する。

「3. 高齢化への布石」  
日々の生活の安定だけでなく、家族の高齢化等に伴う利用者の自立に向けて、相談支援事業者やケースワーカーと連携し、入所施設等を含む必要な情報の提供を行っていく。

「4. 日中活動の成果の発信」  
これまで行ってきた日中活動の一つであるアート活動での創作物を事業所内だけでなく外部に積極的に紹介し利用者の社会参加と生きがいを高める。

「5. 家族との連携」  
利用者のご家族に様々な

行事に参加いただき、意見交換しながら要望を支援に反映させていく。  
以上、5つの提案を港区に行っています。

その他、来年度には、定員の増加、港センター内でのフロア引越し等大きな変化も予定されています。利用者を楽しみ、安全、安心を旨としながら、提案の実現、来年度への備えも進めて参ります。

末筆ではございますが、謙遜の意味など全くなく文字どおりの若輩者です。  
センター長はじめ港センター他事業所施設長、知識と経験・熱意を持った職員との支えを受けながら、施設の利用者とそのご家族、港区や関係機関皆様から厚く信頼いただけるよう日々努力して参ります。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



「ゆうあいくん♪」は法人の  
マスコットキャラクターです

社会福祉法人友愛十字会

法人本部 企画部

部長 宮崎 浩

このたび、東京家政学院大学の学生の皆さんが研究成果としてリニューアルしてくれました。

法人本部を置く世田谷施設では、10月の第一日曜日に各事業所と地域の皆様が一体となって「友愛ふれあい祭り」を開催しています。平成24年度にお祭りのイメージキャラクターを創る企画で、事前に利用者・職員等からそのデザインを募集しました。応募のあったイラスト10作品をお祭り当日に掲示して、来場者の方々に最も多くの投票を獲得したのが「ゆうあいくん♪」でした。そのデザインは、口が「友」（アルファベットU）、目が「愛」（ハートマーク）と「十字」（十字マーク）、顔と腕のポーズで「会」を表わし、胸の「星」は、（法人創設の基金となったハワイ在住の方々のご寄付に対する感謝を込めて）「ハワイの南十字星の輝き」と説明され、機関誌「ゆうあい41号（平成26年7月31日発



行）で紹介されました。

翌年度には、裁縫の得意な数名の職員が夜な夜な手作りして「ゆうあいくん♪」の着ぐるみを作成し、世田谷施設に留まらず法人の様々なイベントで活躍してきました。その後、左の目が「十字マークでは印象が良くない」との指摘から、ハートと十字のマークは頬に移し、新たに黒い楕円で目を描くことで可愛らしさと親しみがアップしました。平成28年度に刷新した法人パンフレットでは、「友愛ふれあい祭りのイメージキャラクター」から昇格し、「法人のマスコットキャラクター」として公表されました。

職員が手作りにした着ぐるみは、デザインの変更や補修を重ねるものの、これを維持することが大変困難となってきました。こうした経過の中、平成29年度に東京都

「ゆうあいくん♪」を見かけた際には、どうぞ温かいご声援をよろしくお願い致します。

社会福祉協議会高齢福祉施設協議会が企画した職員の「ユニフォームコンテスト」で審査員を務められた東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科藤田恵子教授に、砧ホームの鈴木園長が知り合う機会を得ました。「私たちがコラ

ボレーションすることで社会に貢献できることを見つけましょう！」と意気投合し、特養ホーム利用者の手の打撲等を予防するために、ベッド柵に布製のカバーを試作いただくことになりました。さらに、この「ゆうあいくん♪」

の着ぐるみ製作も学生の皆さんの研究として取扱っていただけるとなりました。平成30年度には東京家政学院大学との受託研究契約を締結し、その成果物として着ぐるみを実費のみでご提供いただけることとなりました。藤田教授も学生の皆さんも着ぐるみの製作は初めての取組みで、1年間様々な試行錯誤を繰り返し大変なご苦労をいただきました。あらためて心より感謝申し上げます。また、製作費用につきましては、友愛十字会の後援会にご負担いただきました。後援会の皆様にもこの

場をお借りしてお礼申し上げます。「ゆうあいくん♪」は、これからも様々なイベントで同大学のご協力によるものと紹介させていただきつつ、地域の方々に愛される「友愛十字会のマスコットキャラクター」として、益々元気に活躍して参ります。



左から藤田教授・宮崎・鈴木・製作された6名の学生さん  
平成31年2月8日「東京家政学院大学地域交流会2018」にて

## 令和の時代も地域と共に

砧介護保険サービス

施設長 鈴木 健太

砧介護保険サービスは、在宅で介護を必要とする方の自立と生活の質の向上に向けたケアプランを作成し、支援の円滑な提供を調整するケアマネジャーの事業所です。当事業所には、管理者でバイタリティー漲るベテラン主任ケアマネジャーの広本職員と、優しさと向上心に溢れる新人ケアマネジャーの柳澤職員が在籍しています。事業所の中核である広本職員は、今年度も「砧地域ご近所フォーラム」の実行委員を務められるなど《地域の顔》として信頼も厚く、多くの期待に応えられています。一方の柳澤職員も、その広本職員の熱く手厚い指導を受けながら担当利用者を増やし、日々専門職として活動の幅を拡

げています。私はこの4月に着任した名ばかりの施設長ですが、二人のサポーターの立場から地域福祉のお役に立てればと念じております。

砧介護保険サービスは、令和の時代も地域の一員として《共に生きる》を実行／実現して参ります。引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## なんてたった

砧デイサービス

砧デイサービスセンター

施設長 小泉 貴宏

この4月より砧デイサービスのセンター長に就任いたしました小泉でございます。

現在、砧デイの1日の利用定員は65名、登録者数は約150名弱となっており、高齢者のデイサービスとしては最も大きい「大規模ロ」 という規模の施設になっていきます。

近頃は各デイサービスとも特色を強く打ち出す傾向があります。リハビリに特化したデイ、運動や食事等、ご利用者の興味関心の高いものを前面に打ち出している施設もあります。中にはカジノのようにルーレットやトランプゲームが行えるデイもあるそうです。

では、我が砧デイサービスの特徴は何か。それは「安定感」だと思っています。

砧デイには新人職員はいません。40〜50代の職員が大多数を占めています。故に、フレッシュさはないかもしれませんが、平均で10年近い福祉経



験を持ち、どんなことにも簡単には動じないスタッフ達が日々ご利用者をお迎えしています。ご利用者の皆様に「今日も砧デイに通って来られて良かった。」と思っただけの施設であり続けたいと願いながら日々温かい支援を提供して参ります。私たちはいつでも皆さんのご利用を心よりお待ち申し上げます。

# 善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。  
(平成30年12月1日〜令和元年6月30日)

## 奉仕活動

### ○世田谷更生館

青山 健児  
秋山 一代  
石合 幸雄  
伊藤 幸子  
伊藤 たけ子

### ○砧ホーム

大島 公子  
金子 仲恵  
木村 和江  
黒田 真実  
小林 健太郎  
穴戸 美菜  
原岡 美之  
樋口 宏子  
平岡 佳代  
福永 春美  
渡邊 砂代里

### ○友愛園

市毛 昌子  
大久保 里美  
栗原 美和子  
高木 和子  
成田 信子  
箕輪 千賀子  
藪田 千賀子  
慶應義塾大学  
ライチウス会  
天理教  
北多摩東部支部

### ○友愛デイ

岸井 豊子  
久保山 由美子  
小島 修治  
関澤 勢津子  
山川 敏江

### ○友愛ホーム

末木 江津子  
棚網 純子  
馬場 武子

### ○砧デイ

早田 由貴子  
深井 真理子  
毛利 東洋雄  
山田 たき子  
米田 恵子  
天理教北多摩  
東部支部

### ○サービスマン

朝比奈 瞭  
石田 淑子  
市毛 昌子  
遠藤 一俊  
大西 紀美子  
大矢 末子  
片藤 町子  
加藤 律代  
金子 美代子  
岸本 幹子  
小畑 あや  
小原 祐子  
小松 由紀子  
佐川 喜美枝  
島 陽子  
高橋 静子  
竹内 節子  
田島 利雄  
館野 佳子  
徳永 珠子  
浜 紀子  
濱口 郷子  
前田 静枝  
横山 奈津子  
葭野 明善  
渡辺 澄子  
国立音楽学院  
光寿会  
頌栄教会  
日本赤十字砧分団  
藤の会  
Makalapa Hulalula  
まほの会

### ○砧あんしん

清水 校子  
鈴木 清美  
西多 法子  
野崎 眞喜子  
橋本 眞二  
深野 馨  
間瀬 紘子

### ○港区立障害保健福祉センター

伊藤 佳一  
植村 登美子  
太田 フビア  
北出 千佳  
小林 和子  
田中 里奈  
玉置 正子  
徳永 彩乃  
二木 江津子  
原 三智子  
宮田 誠  
山口 博子  
米田 ひさの  
港区民生委員・児童委員

### ○東京聴覚障害者支援センター

青野 美重子  
卯塚 江利子  
奥村 睦  
金井 誠実  
木村 亜矢子  
小泉 素  
鈴木 智代  
曾輪 信明  
道下 恵美子  
山内 祐宜子

### ○友愛荘

石川 信子  
市川 美代子

### 井上 有里

上綱 敦子  
河端 喜美子  
佐藤 由美子  
帖佐 サナエ  
長尾 百香  
萩原 誠子  
松永 貴三江  
宮坂 里子  
矢口 美知子  
山本 京子  
吉本 京子  
渡辺 喜美代  
ぐるーぷ・そらまめ  
桜台保育園  
寿々の会  
天理教北多摩東部支部  
町田ときわ保育園  
ハッピークラリネット  
アンサンブル  
まっぴるま  
歌月グループ  
山崎友好会

### ○友愛ホーム

馬場 カツ

### ○砧ホーム

小原 祐子

### ○東京聴覚障害者支援センター

糟谷 昭雄  
堀江 承元

### ○友愛荘

寿々の会  
友愛荘家族会

## 寄付物品

### ○友愛園

浅川 都志子

### ○砧ホーム

想親メモリアル

### ○砧デイサービスセンター

河原 恵美子  
小鹿 良子  
佐野 ケイ子  
芹田 キサ  
野口 孝子  
矢野 定基

### ○東京聴覚障害者支援センター

浅川 高文  
ホンダ販売労働組合

### ○友愛荘

荒木 健  
木曾町三家寿クラブ  
友愛荘家族会

### ○港区立障害保健福祉センター

パオ父母会

## 寄付金

### ○本部

関東ボウリング場協会  
昭和女子大学付属  
中高部生徒会  
天理教東京教会婦人会  
北多摩東部支部

### （敬称略）

## 編集後記

「平成最後」という決まり文句が5月1日を境に「令和初」に置き換わりまして、早速ですが本号が記念すべき「令和初」の機関誌ゆうあいと相成りますことをご挨拶申し上げます。さて、間もなくラグビーW杯2019が開幕します。「令和初」は勿論、こちらの「日本初」どころか「アジア初」の記念すべき大会です。開会日の9月20日は、開会式の後、日本対ロシア戦が行われますので、ルールの方から私にとりましても待望の一日であります。また、次号は節目も節目の第50号となります。ゆうあい編集委員会では平成の時分から次号の構想を練って参りました。《記念すべき》が続きますが、令和2年元旦発行予定の機関誌ゆうあい第50号も是非ご期待ください。

ゆうあい編集委員会 副委員長  
砧ホーム  
園長 鈴木 健太

ゆうあい 第四十九号  
令和元年七月三十一日

発行 社会福祉法人友愛十字会  
発行人 金井 博  
所在地 東京都世田谷区  
電話(03)3341-6111  
http://www.yuai.or.jp

表紙写真：東京聴覚障害者支援センター 高橋秀志